北九州市域における尊敬表現法「動詞＋レル・ラレル＋テクダサイ」

住　田　幾　子

はじめに

北九州市域においては、「動詞」に尊敬の助動詞「れる・られる」を接続させ、「～てください」につなぐ表現方法が存立している。北九州市域方言を生活語とする筆者も、この表現を使用する者である。この尊敬表現法の「動詞・レテクダサイ」「動詞・ラレテクダサイ」は、方言学の見地から見れば、いわゆる「新方言」と認められるものである。が、実は、使用者の多くは、この表現が方言であることに気付かず、つい共通語と意識しているという実態がうかがえる。(注記１)

このことはまた、地域における日本語教育においても注意を要する問題ともなる。地方に位置する大学の日本語教育においては、教室で教える共通語と、学習者が教室から離れた時の周辺との方言とのあいだの差異、またそれらの相関関係に注意深くなるのが必定である。それは当然、大学での留学生の日本語教育にとどまるものではなく、当該地域全体にわたる日本語教育上での課題でもある。日本語の教師が方言をネイティブとする場合には、教える対象の表現（広く、日本語全般にわたって）が方言であることに気付かないで、つい共通語として学習させてしまうおそれがある。この種の表現の一つが、尊敬表現法の「動詞＋れる・られる＋てください」なのである。(注記２)

本稿では、方言学と日本語教育との両面にわたる問題として、“方言と共通語”という観点からも、この表現法の使用状況、存立背景などを探ってみたい。なお、以下には、この表現法を、仮に、「～レテクダサイ」と呼ぶことにする。

一、北九州市域における「～レテクダサイ」の使用状況

北九州市・下関市の両地域において聞き得た使用例について、次の点に注目して、その用法を分析してみる。

A　文表現の機能
B　話し手と聞き手の性別と年層
C　使用された場所・状況

なお、用例を掲げる際には、これらの点を合わせて記述していく。

1　既定のことについて指示をする表現

まず、実際に使用された用例を幾つか掲げてみよう。

①コレニ　カカレテクダサイ。〈青女→中女〉［大学の図書館のカウンター］（図書館の司書が、教員に対して、依頼された件について、所定の用紙に記入することを示したもの）

これにお書きください。

②ゴジブンデ　モタレテクダサイ。〈青女→中女〉［旧門司三井倶楽部の入り口］（観光施設の係員が、客に対して、履物の保管方法を指示したもの）

ご自分でお持ちください。

③ニカイ　アガラレテクダサイ。〈青女→中女〉［自動車教習所の受け付け］（教習所の事務員が、客の教習生に対して、入校式の場所を指示したもの）

二階へお上がりください。

④ココデ　ヌガレテクダサイ。〈青女→中女〉［病院のレントゲン室］（検査室の職員が、検査を受ける患者に対して、検査のためのシステムを指示したもの）

ここで（衣類を）おぬぎください。

これらの用例は、当然のこととして決められていることがらについて、言わば、公的な立場から、相手に行動を指示して、実行を要求する場合の表現である。共通語訳には、とりあえず、「お～ください」という表現を当てた。

待遇表現上は、公的な立場から、既知・未知の両方に、そして年齢などで目上と判断した時に使用するものである。

2　話し手の意向を勧告する表現

この種の用例では、公的に既定のこととして指示するというものではなく、「そうしたほうが相手の身のためだ」という場合に、話し手の意向として聞き手に勧告するものとなっている。

⑤ア、ソレワ　＊＊シドーインノ　トコロ　イカレテクダサイ。〈青女→中女〉［自動車教習所の配車カウンター］（教習所の配車係の事務員が、教習指導のシステムに関する質問を受けて客の教習生に対して、それについての事務的な処理方法を促したもの）

あ、それは＊＊指導員の所へ行って（お聞き）ください。

⑥モー、　イーデス　ヨ。キラレテクダサイ。〈青女→中女〉［病院の診療室］（看護婦が、患者に対して、衣服の着用を促したもの）

もういいですよ、（着物を）着てください。

⑦ドヨービマデニ　キメラレテクダサイ。〈青男→中女〉［家具店での売場］（業者の店員が、客に購入商品の決定期日を促したもの）

土曜日までにお決めになってください。

⑧コレ　ツカワレテクダサイ。〈中女→中男〉［自宅に主人の客が宿泊した時］（家人が、客に対して、洗面用具の使用を促したもの）
これ（タオルを）お使いくださいませ。

⑨センセー　オカレテクダサイ。〈中女→老男〉［ＪＲの空席の前で］（年下の教師が年長の教師に対して、空席を見つけて荷物になっているカバンを置くように促したもの）
先生、（どうぞ、荷物を）お置きになってください。

などが聞かれたが、共通語訳には「お～になってください」「お～くださいませ」「お～ください」「～てください」などの表現が当てられようか。

待遇表現上、目上と判断した時に、公的にも私的な場合にも使用することができる。

3　注意などを促す表現

社会通念として当然と思われることがらについて、たとえば、注意すること・準備しておくことなどについて、それの実行を促す表現においても使われている。

⑩キオツケテ　ウンテンオ　サレテクダサイ　ネ。〈中男→自動車教習生の受講生一同〉［自動車教習所の教室での講義の時］（教習員が、教習生に対して、事故防止の内容の講義最中に述べたもの）
気をつけて運転なさってくださいね。

⑪キオツケテ　ヤラレテクダサイ。〈中男→自動車教習の受講生一同〉（⑩の同例と同じ場面）
気をつけて（運転を）やってください。

などは、聞き手に対して注意を促すものである。共通語訳には「尊敬動詞＋てください」も当てられる。

これらの用例からは、待遇表現上、聞き手が多数の公的な場面では、目上に対してというよりも、対等、あるいは目下であっても、立場上、より丁寧に遇するという意識がうかがえる。

4　あいさつことばとしての慣用的な表現

上記の「2　話し手の意向を勧告する表現」・「3　注意などを促す表現」などに通じるものではあるが、特にあいさつことばとしての用例を掲げる。

⑫オキオツケテ　イカレテクダサイ〈中男→中女〉。［ガソリンスタンドで客を見送る時］（ガソリンスタンドの従業員が、客に対して送辞を述べたもの）
お気をつけていらしてください。

⑬ドーゾ　オラク　サレテクダサイ。〈中女→中男〉［客を迎えた時］（客に対して、くつろぐように勧めたもの）
どうぞ、お楽になさってください。

⑭ドーゾ　オカシ　トラレテクダサイ。〈中女→中女〉[客を接待する時]（客に対して、菓子の接待を受けるように勧めたもの）
どうぞ、お菓子をお取りくださいませ。

などがあるが、この「～レテクダサイ」という表現は、あいさつことばの中でも使用頻度の高いものであろう。

待遇表現上は、やはり、立場上、目上として失礼のないように配慮し、より丁寧にと遇するものである。

以上に掲げた「～レテクダサイ」の用例は、実際に身のまわりの自然談話において聞き得たものであるが、その使用者は、青年層・中年層の女性・男性である。

二、当該地域方言「～レテクダサイ」と共通語「～てください」類との対照

一に掲げた当該地域方言での「～レテクダサイ」の使用例とそれに対応する共通語訳とを検討する時、まずは、次のとおりの一覧表ができる。

【表１】

当該地域方言での表現	共通語での表現
動詞・レ・テクダサイ （動詞・ラレ・テクダサイ）	a　動詞・てください b　動詞・てくださいませ c　尊敬動詞・てください d　お(ご)・動詞・ください(ませ) e　お(ご)・動詞・になってください(ませ) f　他の表現を使用する

しかしながら、実際には、上に掲げた用例に、逐次共通語を当てることは困難な作業である。そこには、根本的に、当該地域方言と、共通語との本来の敬語表現法上の差異が存在しているからである。

上記の一覧表にあるとおり、当該地域方言での「～レテクダサイ」は、共通語での幾とおりかの表現に対応していることがわかる。これは、「～レテクダサイ」が、待遇表現上、敬意の度合いの低いものから高いものまで幅広く表現することができるということを示している。

いっぽう、共通語の場合は、敬語法の体系上は上記の表のａからｆまでが考えられるものの、現実の言語生活においては、聞き手が当然のこととして行うべきことがらを指示するような場合には、待遇上の上下関係にこだわることなく、通常は、ａの「動詞・てください」という表現の使用頻度が高いようである。そして、私的な人間関係において目上・

目下の立場が明らかな場合や、公的な場（たとえば、１対多数で公開されている）などにおいては、それぞれの事例に応じて、種々の尊敬表現が選ばれているのではなかろうか。また、「～てください」という一種の命令表現が、聞き手に対して失礼であると判断した場合には、「お菓子、どうぞ。」など、聞き手の行為を示す部分の表現を省略したり、それを避けて他の表現を使用するなどの処置を行っているようである。

三、共通語として意識されている「～レテクダサイ」

「～レテクダサイ」という表現に関しては、共通語と思いこんで使用しているのではないかと考えられるので、その実態を調査することにした。青年層の女性についてのみの調査になるが、梅光女学院大学の学生、115名に対して、アンケート方式での調査を行ってみた。

これらの女子学生の年齢は19才から22・23才までであり、出身地域は、九州・沖縄の各県、中国地方の山口県・広島県・岡山県、四国地方の愛媛県にわたっている。

調査の内容は、次の表２に掲げた14項目について「あなたが、目上の人に敬語を使用する場合に、普段、使っている話しことばで書いてください。」と指示をしたものである。この調査票は、

(1)自然談話からの使用例を分類、整理した結果から場面等を選定したもの

(2)文献によって動詞を選定したもの（注記３）

をもとに作成したものである。ここには、日常の言語生活において、「～レテクダサイ」という表現を使用する度合いの高いと考えられる場と、一般によく使用する動詞、尊敬動詞、サ変動詞などを取り入れている。

【表２】

1	〈病院で〉朝晩、一錠ずつ(飲んでください)。
2	〈案内などで〉階段を(上がってください)。
3	〈客などに〉お菓子を(取ってください)。
4	〈団体旅行などで〉８時にここに(集まってください)。
5	〈レントゲン室で〉衣類はここに(脱いでください)。
6	〈窓口・受け付けなどで〉ここに(書いてください)。
7	〈講習会などで〉前のほうから(座ってください)。
8	〈診察室などで〉もういいですよ。(着てください)。
9	ここに(居てください)。
10	もう(寝てください)。
11	あした、また(来てください)。
12	〈案内などで〉つきあたりの部屋へ(行ってください)。
13	〈客などに〉(楽にしてください)。
14	〈事務手続きなど〉変更があったら(連絡してください)。

この調査の結果から、まず、「～レテクダサイ」の回答状況を見ていく。それぞれの動詞ごとに、「～レテクダサイ」の回答数と、複数回答による総回答数とをあげ、さらに、総回答数から見た「～レテクダサイ」の使用率を掲げたものが表３である。

【表３】

順位	動　詞	使用回答	総回答数	使用率	順位	動　詞	使用回答	総回答数	使用率
1	行　く	100	131	76.3	8	寝　る	65	153	42.5
2	着　る	64	121	74.4	9	来　る	64	153	41.8
3	脱　ぐ	83	139	64.7	10	す　る	56	131	40.9
4	上がる	88	142	62.0	11	座　る	58	146	39.7
5	書　く	74	146	50.7	12	連絡する	48	140	34.3
6	飲　む	78	157	49.7	13	取　る	52	152	34.2
7	居　る	61	127	48.0	14	集まる	46	135	34.1

事項によって使用状況に異なりがあるものの、いずれも「～レテクダサイ」は、34.1パーセントから76.3パーセントの使用率をあげていて、当地域での言語生活において活用されている表現であることがわかる。

つぎに、「～レテクダサイ」以外の表現の使用状況を見てみよう。14の事項の中から、一般動詞・尊敬動詞・サ変動詞の３項の回答例を整理して一覧表にしてみた。(表４)

「書く」について見てみると、「～れてください」が74例、「お～ください」が37例、「お～になってください」が32例となっていて、当地域に尊敬表現法として、まず、この３つの表現形式が存することが認められる。

つぎに「来る」を見ると、上の三形式のほかにも、「いらしてください」「いらっしゃってください」「みえてください」が、合わせて54例あり、「尊敬動詞・てください」の表現形式もまた存していることが認められる。

「連絡する」についても、「書く」「来る」とほぼ同様であるが、ここでは、「ご～ください」の使用率が高くなっている。

調査対象者である学生にとっては、「お～ください」「尊敬動詞・てください」「お～になってください」と同じく、「～れてください」という表現形式も、また共通語であるとの意識がある。ちなみに、方言での尊敬表現形式も、方言とことわって幾例か報告されている。

カイテクンシャイ・カイテクンサイ・カイテクンシャレンデスカ(佐賀県、伊万里市・鹿島市)

【表４】

書　く		来　る		連絡する	
かかれてください	74	こられてください	64	れんらくされてください	46
おかきください	37	いらしてください	31	ごれんらくされてください	2
おかきになってください	32	いらっしゃってください	22	れんらくなさってください	18
ごきにゅうしてください	1	おこしください	8	れんらくなされてください	1
きにゅうしてください	1	おいでください	10	ごれんらくなさってください	1
かいてください	1	おみえください	1	ごれんらくください	59
	(146)	おいでになってください	2	ごれんらくになってください	1
		みえてください	1	ごれんらくしてください	4
		きてください	2	れんらくしてください	7
			(143)	れんらくしておいてください	1
					(140)
		きていただけんでしょうか	1		
				れんらくしてくれんですか	1
				れんらくおねがいします	1
				ごれんらくおまちしています	1

カカシャッテクダサイ（福岡県八女郡黒木町）

カイチャッテクダサイ（山口県、厚狭郡山陽町・防府市）

などが、その用例である。

筆者（中年層・女性）もまた北九州市出身・当地在住の者で「カイチャッテクダサイ」形式を保持しているが、この表現を使用するのは、聞き手が老年層で、明らかに当地の人と判断した時である。内省すると、通常は、やはり「～レテクダサイ」を使用することが多い。

また、普段の言語生活においては「尊敬動詞・てください」「お～になってください」はあまりにも共通語らしくて、その使用には気恥ずかしさが伴う。よほどあらたまった場か、聞き手が明らかに共通語話者であると判断した場合には使用することもあるという状況である。

さて、それでは、なぜ、主に「～レテクダサイ」を使用するのであろうか。「お(ご)～ください」は、聞き手と対面して話す場合には、限られた場合を除いては、命令表現としての色合が濃いように感じられる。そこで聞き手の行為の部分には尊敬の意を表して「れる・られる」を用いることによって失礼さを避けることができると判断しているのではないだろうか。ちなみに、相手が不特定多数で、書きことばで指示をする場合には、

（パンフレットなどを）ご自由にお取りください。

休講される時は、この用紙をご提出ください。
などのように「お(ご)～ください」を使用する。
ともあれ、「～レテクダサイ」は、当地域において、この種の表現法の体系の中で一つの地位を築いている表現なのである。

当地域において、いつごろ「～レテクダサイ」表現が生起したのかということについては、現時点では、まだつかめていない。が、岡野信子氏から、昭和40年代に、北九州市小倉区内の病院で、青年層の看護婦から、
(ベッドに) ヤスマレテクダサイ。　　お休みください。
というのを聞いて驚いたとのご教示があった。氏は、その時、初めてこの表現を耳にした由である。氏のご教示からは、「～レテクダサイ」が、それまでの北九州市域方言には存していなかったものであることが明らかである。

四、「～レテクダサイ」を使用する地域

この調査で「～レテクダサイ」を「言う (使用する)」と答えた学生の出身地域は、つぎの表5のとおりであった。
(　) 内の数字は、回答した人数である。(　) のないものは、回答した人数が1名の場合である。
「～レテクダサイ」の使用者は、北九州市周辺域の出身者のみではなく、九州・沖縄の各県、山口県、広島県、愛媛県の出身者におよんでいる。
いっぽう、「～レテクダサイ」を「言わない (使用しない)」と答えた学生が、福岡県では北九州市、宗像郡福間町、福岡市、八女郡黒木町に、佐賀県では神埼郡三瀬村、小城郡牛津町、鹿島市、唐津市に、山口県では下関市、山口市に、岡山県伊原市に各1名ずつある。
同じ地域において、使用する者と使用しない者とがあるのもまた現在の状況である。このことについては、一つには、大学の所在地である下関市の調査によるもので、学生が当市に在住したためとも考えられる。二つには、各地域において、それぞれに「～レテクダサイ」が使われはじめていることを示しているとも考えられる。
いずれにしても、現時点では、この表現がどこで生起したのか、それがどのように進展していったのか、あるいはまた、それぞれの地において生起しているのか、を解明することはできていない。

【表５】

福岡県	北九州市(28) 遠賀郡水巻町 遠賀郡岡垣町 中間市 直方市(２) 鞍手郡小竹町 飯塚市 宗像市(２) 宗像郡福間町(２) 福岡市(２) 朝倉郡把木町 八女郡黒木町 柳川市 行橋市 豊前市	大分県	中津市 宇佐市 豊後高田市 大分市(２)	宮崎県	延岡市 宮崎市
				沖縄県	那覇市
		佐賀県	神埼郡神埼町(２) 小城郡牛津町 多久市 杵島郡白石町 伊万里市	山口県	下関市(８) 豊浦郡豊浦町 長門市 美祢市 厚狭郡山陽町(２) 宇部市(３) 吉敷郡小郡町(２) 山口市 防府市
		長崎県	松浦市 平戸市 壱岐郡郷之浦町		
		熊本県	山鹿市	広島県	高田郡吉田町 山県郡芸北町
		鹿児島県	出水市	愛媛県	北宇和郡津島町

おわりに

なぜ、どのようにして「～レテクダサイ」という表現が生起し、成立するにいたったのか。

この問題については、尊敬の助動詞「れる・られる」の用い方が焦点となる。尊敬の助動詞「れる・られる」については、藤原与一による詳しい研究がある。その『昭和日本語方言の総合的記述　第一巻　方言敬語法の研究』(1978　春陽堂）の「第五章　第二節尊敬法助動詞『レル・ラレル』による尊敬表現法」には、「二　九州地方の『～れる・られる』」についての記述が見られるが、それによっても、北九州市域における「～レテクダサイ」に関わる「れる・られる」は、旧来のものではなく、共通語からの新来のものであると判断することができる。

念のため、先に述べた学生に対して、共通語としての「れる・られる」の使用状況も合わせて行ってみたが、「れる・られる」の用法は共通語と同様によくおこなわれているこ

とがわかる。この共通語の「れる・られる」を使いこなしたところから、「～レテクダサイ」表現法が生まれたものかと推察する。(注記４)

ともあれ、共通語体系の中に浸りきることのない地域在住の者にとっては、ひとくちに「共通語と方言との二重言語生活」をというものの、それを行なうことは存外に容易なことではないのである。

注　記

1　参考文献１に、次の記述がある。(P.63～64)

普段、日常会話として、人に足を楽にすることを勧めるのに、「足をくずされてください」とか「ひざをくずされてください」とは言うが、「あぐらをかかれてください」とは言わないし、聞いたこともない。

2　参考文献２に、次の記述がある。(P.128)

「～されて下さい」という形では東京では決して用いられない形である。「行かれて下さい」という言い方を初めて聞いたとき驚いたのを覚えている。

3　参考文献３、「１．２．２　特定の語を用いるもの（動詞を主とする)」(P.44～46)の一覧表と、参考文献４、「命令の表現」(P.196) の項目とによっている。

4　参考文献５、「六　動作のことば」の項に、

第１の「れる」「られる」の型は、受け身の言い方とまぎわらしい欠点はあるが、すべての動詞に規則的につき、かつ簡単でもあるので、むしろ将来性があると認められる。

とあり、また、「九　学校用語」の項の、「３」に、

戦前、父母・先生に対する敬語がすべて「おっしゃった」「お―になった」の式であったのは少し行きすぎの感があった。戦後、反動的にすべて「言った」「何々した」の式で通すのもまた少し行きすぎであろう。その中庸を得たいものである。たとえば「きた」でなく「こられた」「みえた」など。

ともある。「～レテクダサイ」の生起には、とにかく、この方針が関わっているであろう。

参考文献

1　福盛仁美『北九州市の方言状況の研究』(1993　梅光女学院大学文学部日本文学科卒業論文)

2　坂本　恵「下関方言の一面――方言に見えない方言について――」(『下関市立大学論集　第38巻　第３号』1995　下関市立大学学会)

3　『日本語教育指導参考書　2　対遇表現』(1971　文化庁)

4　『日本語教育事典』(1982　大修館書店)

5　「これからの敬語」(1952　国語審議会から文部大臣への建議)

付　記

1　本稿は、「尊敬表現法の『～レテクダサイ』について」という題目で、「方言研究ゼミナール'96」(1996・4・28) において口頭発表したものをまとめたものである。発表後、会に出席の研究者の方々に多くの教えをいただいたことを、記して感謝申し上げる。

2　本稿の校正中に、日高貢一郎氏より「『～されてください』考―大分県での実態を中心に―」(『平山輝男博士米寿記念論集　日本語研究諸領域の視点』1996. 11) をいただき、この課題についての論文発表の存在を知った。